



## 三十六星霜・はるけくも来つるものかな、川神傳弘 教授略年譜、川神傳弘教授研究業績

著者	川神 傳弘
雑誌名	仏語仏文学
巻	41
ページ	3-9
発行年	2015-03-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00017220">http://hdl.handle.net/10112/00017220</a>

## 三十六星霜・はるけくも来つるものかな

川 神 傳 弘

関西大学文学部仏蘭西文学科を卒業した1968年、大学院フランス文学専攻修士課程に入学した。学生運動の嵐が下火になったり、再び燃え上がったりを繰り返していた時代である。授業が半年間成立しない年もあって、お蔭でアルバイトに精を出すことができた。修士の2年目から二つの大学でフランス語非常勤講師として働き始め、その後も10年ばかり関西のいろいろな大学で講師を勤めた。

70年代前半の大学構内はいずこもいささか騒擾然としていた。たとえばある大学では、ヘルメットにマスクを着用し、鉄パイプを槍のように構えた40人ばかりの学生が中庭に整列し、「マエイ、マエイ、ツケー」の掛け声とともに軍事演習のようなことをしていた。また別の大学キャンパスでも同じような身拵えをした若者たちが鉄パイプを持って廊下を行き来し、束になって教室に入ってきて授業を妨げ、強硬にアジ演説の要求をする。理論武装が出来ていない（要するに口下手）私は5分間の約束で教壇を譲る。しかし約束は守られず、30分も続くことが再三あった。

当時、登校拒否児童が社会問題になっていたが、登校拒否をしたかったのは実は私であった。若者らが狭苦しい庭に机を五段に積み上げ、そのひな壇の最上部に5人ばかりの教授を座らせて威圧的な言動で威嚇したり、暴力をふるったりの、いわゆる吊るし上げの場面に遭遇したこともある。先生と弟子の立場（上下）の逆転という意味で、それは間違いなく Révolution（回転）と言える現象であった。1978年助教授として関西大学に任用された頃もまだその余燼は燻り続けていた。一時期、仏文合同研究室は学生に占拠され、入口のドアの内側は机や椅子を積み上げた

バリケードで封鎖されていた。

思い起せば、私がサルトルを研究対象に選んだ動機の一つは、そのような時代背景と社会事象にあったかも知れない。当時世界中を席卷し、若人を過激な行動に駆り立てていた西欧思想は、日本という根底的に文化の異なる社会においても有効な手段として通用しうる、また暴力の使用を容認する論理的整合性を持つものであるのかどうか、ということであった。そして若者にとどまらず、フランスおよび日本の知識人界において、サルトルはカリスマ的イデオログとして崇められていたからである。

1964年55名の同級生と一緒にフランス文学科に入学した。学籍番号仏64-17をいまだに覚えている。したがって関大生活は（紆余曲折はあったが）トータルで51年間であり、いつの間にやら古稀を迎えた。もっとも、身体のあちこちの関節はずいぶん前からコキコキ鳴っていた。

すでにして鬼籍に入られた数多の恩師、お世話になった同僚、友人、教え子の方々の相貌が脳裏をよぎる。学生生活や学究生活をこれまで曲がりなりにも大過なく勤めあげられたのは、そうした多くの皆様の支えがあったればこそである。私はしあわせな日々を送ることができたと言える。ご縁のあった方々に、この紙面をお借りして衷心から感謝の言葉を捧げたい。ありがとうございました。

## 川神 傅弘 教授略年譜

- 1945年 1月 島根県浜田市にうまれる
- 1963年 3月 島根県立浜田高等学校卒業
- 1964年 4月 関西大学文学部仏蘭西文学科入学
- 1968年 3月 同 卒業
- 1968年 4月 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻修士課程  
入学
- 1970年 9月 同 終了
- 1970年 4月～79年 3月 佛教大学 阪南大学 平安女学院大学 大阪音  
楽大学 関西学院大学 関西大学 立命館大学 同志社  
大学 同志社女子大学 神戸市外国語大学 追手門学院  
大学等にて非常勤講師（フランス語）
- 1979年 4月 関西大学文学部 専任助教授
- 1982年 4月 関西大学文学部 教授
- 1985年 7月 フランス外務省招聘日本フランス語教授団団長として渡  
仏
- 2001年 4月 関西大学在外研究員としてフランスに留学
- 2002年 6月 関西大学とパリ第三大学との交流協定をまとめ、学長と  
ともにパリ大四大学での調印式に出席
- 2012年 4月 関西大学名誉教授

## 川神 傅弘 教授研究業績

### 〔著書〕

『サルトルの文学 倫理と芸術のはざまを奏でる受難曲』関西大学出版部 2006年3月  
 同年当著書は 日本図書館協会の選定図書に指定された

### 〔学術論文〕

『嘔吐』：テーマの外側にあるもの《L'esprit de sérieuxの拒否》 関西大学仏文学会機関誌『仏語仏文学』6号 pp.39-57 1972年5月

Sartreの眼差 日本フランス語フランス文学会学会誌『フランス語フランス文学研究』23号 pp.44-51 1973年10月

サルトルにおける《糞便論的記述》—— 関西大学仏文学会機関誌『仏語 仏文学』7号 pp.45-68 1974年5月

自由への《Les chemins》 関西大学仏文学会機関誌『仏語 仏文学』9号 pp.63-76 1978年2月

ゲッツ《変貌》に見る—— 16・18・20世紀を生きた一精神史—— 関西大学文学会『文学論集』第30巻第1号 pp.125-156 1980年10月

サルトル：スカトロロジーへの郷愁 関西大学文学会『文学論集』第31巻第1号 pp.77-102 1981年10月

フランス語現代文学に見る〔不条理〕の実体 関西大学文学会『文学論集』第32巻第4号 pp.67-92 1983年3月

『他者』意識の〔実存〕と〔非実在〕 関西大学文学会『文学論集』第33巻第3号 pp.73-96 1984年2月

サルトルと biographie —— サルトルにおける伝記的アプローチ —— 関西大学仏文学会機関誌『仏語 仏文学』15号 pp.47-65 1986年2月

サルトルの実存的〔不安〕について 関西大学仏文学会機関誌『仏語

仏文学』18号 pp.77-92 1989年12月

『嘔吐』における「緒言」の意味——問題小説のささやかなる美学——  
関西大学文学会『文学論集』第44巻第1号～3号 pp.101-121 1994年  
2月

*Carnet de la drôle de guerre* 関西大学仏文学会機関誌『仏語 仏文学』  
26号 pp.35-52 1999年2月

サルトルの「愛」と「他者」 関西大学文学会『文学論集』第51巻第4  
号 pp.25-48 2002年3月

『汚れた手』と『奇妙な戦争のメモ』のはざま 関西大学仏文学会機関  
誌『仏語 仏文学』31号 pp.1-30 2004年2月

サルトルと全体主義——預言者サルトル—— 関西大学仏文学会機関  
誌『仏語 仏文学』34号 pp.23-37 2008年3月15日

J.-P. Sartre と A. Camus —— transcendance v.s. hic et nunc —— 関西大  
学仏文学会機関誌『仏語仏文学』35号 pp.33-59 2009年3月15日

サルトルとカミュの homo homini lupus 関西大学仏文学会機関誌『仏  
語仏文学』37号 pp.1-18 2011年3月15日

現代フランス知識人の社会への関与と責任 関西大学重点領域研究助  
成 2013年3月

「カミュ・サルトル論争」が示唆する抑圧と自由 東西学術研究所紀要  
2013年4月1日

#### 〔翻訳〕

いま、サルトル——サルトル再入門『サルトル的エクリチュールに見  
られる学校的文章モデル』思潮社、現代詩手帖特輯版 pp.279-301 1998  
年7月

作家サルトル：その小説作品の今日的読解（ジュヌヴァイエーヴ・イット）  
関西大学仏文学会機関誌『仏語 仏文学』31号 pp.47-60 2004年2月

著書の紹介と翻訳 ツヴェタン・トドロフの『国替えを余儀なくされ  
た男』関西大学仏文学会機関誌『仏語仏文学』36号 p.1-pp.67 2010年

3月15日

著書の翻訳と紹介 マルセル・ブートロンの『ベドゥーク もしくは バルザックのお守り』 関西大学仏文学会機関誌『仏語仏文学』2014年3月

〔学会発表〕

悪魔と神とサルトル 単 関西大学仏文学会 1972年7月

Sartreの眼差 単 日本フランス語フランス文学会 於慶応義塾大学  
1973年5月

サルトルに於ける糞便論的記述の功罪 単 関西大学仏文学会 1980  
年12月

サルトルの『奇妙な戦争』について 単 関西大学仏文学会 1997年  
12月

サルトルに於ける《知識人》と《労働者》 単 関西大学仏文学会  
2001年12月

1940年代～50年代フランス知識人の論争に見る抑圧の問題 関西大学  
フランス文学会 2012年12月15日

専制政治下における自律と自由 関西大学東西学術研究所 例会発表  
会 2013年1月16日

サルトルの『嘔吐』における「緒言」の意味—— création et fabrication ——  
東西学術研究所例会発表会 2017年2月26日

〔講演〕

フランス文化とキリスト教（大阪ワイズメンズクラブ・千里阪急ホテル）  
2007年11月14日

フランス文化の基底を成す3要素 県立濱田高校同窓会（リーガ・ロ  
イヤルホテル） 2011年1月15日

〔研究報告〕

“怪物”サルトル考—— 合理主義者に訪れるロマンチック病—— 産経

新聞・文化欄21面 2006年7月12日

〔文部科学省科学研究費補助金〕

基盤研究C 1940・50年代のフランス知識人の全体主義との係わり  
2007年-2008年 1,700,000円 研究代表者として

〔その他〕

渡辺幸博著「サルトルの哲学」——人間と歴史—— 単著 関西大学  
生活協同組合「書評」編集委員会52号 1980年6月

私大に生きる“クロワッサン”はいま… 関西大学通信119号 p.10  
1982年5月

読書特集 読書案内 関西大学通信 169号 p.5 1988年1月

フランス文学 何を学ぶか 蜩雪時代 旺文社 4月臨時増刊号  
p.131 1989年4月

クラブ活動今昔 関西最古のクラブ ボクシング部 関大415号 p.7  
1992年1月

広島大学 大学教育センター設立の主旨及びその沿革 研究センター報  
第20号（関西大学一般教育等研究センター） pp.61-64 1995年9月

〔教科書〕

身近なフランス語（文法読本）共編 白水社 1984年3月

プレリュード（文法読本）共編 第三書房 1988年3月

ノートル・アミチエ（文法読本）共編 白水社 1993年3月

マリーとマサコ（文法読本）共編 第三書房 1994年3月

ルネのアルバム（文法読本）共編 芸林書房 1995年1月

フランス語文法14講（初級文法）共編 朝日出版社 1995年4月